令和８年度（第４回）オーストラリア・ニューカッスルグローバル研修
成果報告書

研修目的	①　グローバル社会における課題，多文化共生社会の現状，オーストラリアの文化・遺産について，直に協定校ニューカッスル大学教員の特別講義及び研修期間中の実地から学び，また，その根幹となる言語（英語）学習により，自らの考え・意見を伝える力及び異なる背景・意見をもつ人々への理解・尊重する精神を養う。 ②　海外の学生と共に学ぶ学習や交流プログラム等を通して，異文化理解やコミュニケーション能力の向上を図る。 ③　様々な学部等から参加する学生とともに，本学初の海外拠点があるニューカッスルやオーストラリアを知ることを通して，多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力を伸ばす。
研修場所	① 日本大学ニューカッスルキャンパス 教育棟 所在地：オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州ニューカッスル市 ② ニューカッスル大学及びニューカッスル大学国際教育機構 （College of International Education） 所在地：オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州ニューカッスル市 ニューカッスル大学カラハンキャンパス
所在地	オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州ニューカッスル市
研修期間	令和８年３月２日（月）～３月２８日（土）２７日間
研修内容	① 講義（合計２１時間） ※ニューカッスル大学教員による本研修のために特別に用意された内容で，グローバルな課題，多文化共生社会，オーストラリアにある世界遺産の歴史・保全の意義及びオーストラリアの文化をスポーツの側面から学ぶテーマを扱う。なお，４講義は，座学，実地研修付き又は専門用語セッション及び討議・発表実践演習付きの３パターンの授業形態をとる。また，一部の講義は受講に当たり事前学習を行う。 (1) グローバル問題について　※事前学習有り (2) オーストラリアの先住民について　※事前学習，実地研修有り (3) オーストラリアの世界遺産から学ぶ ※専門用語・ディスカッション・プレゼン演習有り (4) オーストラリアの文化ースポーツが育むライフスタイル・国民性 ※専門用語・ディスカッション・プレゼン演習有り ② 実地研修（合計５時間） (1) ニューカッスル市内の地理，歴史，交通，環境等を歩いて学ぶ研修 (2) ニューカッスル大学カラハンキャンパス Wollotuka 研究センターでの研修 ※同センターの教室を使って行われる講義「Indigenous Australia」後に，同センター内の見学，関係者によるプレゼンテーション及び意見交換等により，アボリジニに関する理解を深める研修 (3) ニューカッスル大学カラハンキャンパスの研究ラボ（言語学分野予定）を訪問し海外の大学の実情を見聞する研修 ③ 語学研修（語学授業４１時間（語学オリエンテーションを含む），交流プログラム８時間，合計４９時間）

	(1) 現地で留学生向けに開講されている英語クラス（English Language Bridging Program(略称 ELBP)）に参加し，能力別クラスで英語の４技能（Speaking, Listening, Writing, Reading）を学ぶ。多様な国々からの留学生と勉学を共にすることにより，語学知識の修得にとどまらず，異文化や多様性を意識したコミュニケーション能力を有する人材育成を行う。 (2) 本学に用意された，ニューカッスル大学の学生との交流プログラム等（Student-led Cultural Exchange Activities（略称 SEP)）を通して，教室で学んだ英語の実践やニューカッスルとのつながりを構築する。 ④ 事前及び事後研修 研修参加の条件として事前研修への参加を義務付け，計２回実施。また，事後研修については，研修報告書の提出及び職員によるフィードバックをもって実施。
単位認定	有　※ただし所属学部等により異なる。
参加者の人数	３０名
補助等	日本大学校友会から参加者全員に対し，航空運賃相当の寄付を受領

【学生による研修報告書】

所属学部・研究科　　歯学部
氏名　　Ｍさん
研修期間　　２０２６年3月２日（月）～3月２８日（土）

私はオーストラリア・ニューカッスルグローバル研修に参加する中で、以下の２つのことに関する理解が深まった。

まず１つ目は、教育面についてである。語学学校のオリエンテーションで日本とオーストラリアの教育の違いと共通点についてディスカッションをした際に、次のことを学んだ。オーストラリアでは、生徒に主体的に考え、発言させる教育を行っている。それはすなわち、先生はほとんど話さず、生徒に意見を求めたり、ディスカッションやプレゼンテーションをさせたりする教育法である。また、先生はたとえ生徒の意見が非現実的であっても意見を最後まで聞き、決して否定はしない。独創的で自由な発想から生まれる考えを大切にしているためである。この教育の良さを実際にディスカッションする上で、他者の意見から自分の発想にはなかった考えを得られたことや現地の学生の論理性のある優れた意見を聞いたことで実感した。

２つ目は、先住民族についてである。現地人は先住民族に敬意を払って生活していた。これは、オーストラリアが１つの国としてできるはるか昔から住んでいる先住民族に敬意を払っているためだと学んだ。また、アボリジニは自然と共存していた。例えば、木や木の実を薬、絆創膏や香水として使っており、それらを実際に見ることができたのはとても興味深かった。

次にコミュニケーション能力の向上についてである。私は、研修を通して、発言することに対する積極性が増し、英語を話す恐怖心が無くなったと感じた。これらは、現地で学ぶ学生と会話をする中で、自ら積極的に発言をしないと会話が開始また継続しないことを学び、挑戦したことで成長したと考える。

また、今回の研修で学んだことを歯科医師になる上で以下のように活用していきたい。

まずプレゼンテーションのやり方である。視聴者の注目の集め方や見やすいパワーポイントの作り方など様々なこと学んだ。これらを将来、学会で症例や研究の発表を行う際に利用したいと考えた。

また、現地の学生と会話ができた経験から英語力に自信がついたため、これをモチベーションにより英語を学び、外国の方の診療も難なく行えるような歯科医師を目指していきたい。

日本大学校友会の皆様、この度はオーストラリア・ニューカッスルグローバル研修に寄付をしてくださり誠にありがとうございました。おかげで貴重でかけがえのない経験をすることができました。